

令和7年度 年間授業計画				科目の 目標	社会で生活するのに必要な国語の知識や技能を身につけ、深く共感したり豊かに想像する力を伸ばして、自らを向上させ、言葉を通して他者や社会に積極的に関わろうとする態度を養う。	教科書	高等学校標準現代の国語（第一学習社）
教科	国語	科目名	現代の国語			副教材	トータルサポート 新国語便覧 改訂版（大修館書店） 意味で覚えて漢字を知る 漢トレ（い いずな書店）
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	1年次	形態	クラス単位				
担当者名		1組：塩原 2組：内田 3組：塩原 4組：内田 5組：塩原					

	1学期	2学期	3学期
授業 内容	P9～15「なぜ本を読むのか」又吉直樹 P43～50「水の東西」山崎正和 P190～193「慣用表現」 漢字	P32～42「言語としてのピクトグラム」本田弘之 P69～78「「弱いロボット」の誕生」岡田美智男 P123～127「話し方の工夫」 四字熟語 漢字	P87～97「イースター島になぜ森がないのか」鷲谷いづみ P111～115「「間」の感覚」高階秀爾 P188～189「敬語の使い方」
	授業時数	25	30

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識・技能	実社会に必要な国語の知識（漢字・語句）や技能を身に付ける。	文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について十分理解できている。	文章の効果的な組み立て方や接続の仕方についておおむね理解できている。	文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解できていない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
思考・判断・表現	論理的に考える力や、筆者の意見を適切に読み取る力を基に、意見を構築し、他者との関わりの中で共感し、伝え合う力を高める。	文章の内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にししながら、要旨を十分に把握することができている。	文章の内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にししながら、要旨をおおむね把握することができている。	文章の内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら、要旨を把握することができていない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
主体的に学習に取り組む態度	積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持つようとしている。	多面的、多角的な視点から自分の考えを見直し、根拠や論拠の吟味を重ねて自分の主張を明確にすることが十分できている。	多面的、多角的な視点から自分の考えを見直し、根拠や論拠の吟味を重ねて自分の主張を明確にすることがおおむねできている。	多面的、多角的な視点から自分の考えを見直し、根拠や論拠の吟味を重ねて自分の主張を明確にすることができていない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物

令和7年度 年間授業計画				科目の 目標	社会で生活するのに必要な国語の知識や技能を身につけ、深く共感したり豊かに想像する力を伸ばして、自らを向上させ、言葉を通して他者や社会に積極的に関わろうとする態度を養う。	教科書	新編言語文化（数研出版）
教科	国語	科目名	言語文化			副教材	トータルサポート 新国語便覧 改訂版（大修館書店）
単位数	2単位	区分	必履修				読んで見て聞いて覚える 重要古文単語315 四訂版（桐原書店）
年次	1年次	形態	クラス単位				
担当者名		1組：内田 2組：塩原 3組：内田 4組：塩原 5組：内田					

	1学期	2学期	3学期
授業内容	P166「古文に親しもう」 P174～176「宇治拾遺物語 児のそら寝」 P177～179「古文の学習 歴史的仮名遣い」 動詞の活用	P204～205「伊勢物語 芥川」 P206～209「伊勢物語 筒井筒」 P106～119「葉桜と魔笛 太宰治」 P120～123「太宰治」 P278～279「寝殿造・調度」 動詞の活用	P222～229「平家物語 木曾の最期」 P236～237「訓読のきまり」 P238～239「格言」 動詞の活用
授業時数	25	35	15

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識・技能	古典読解のために必要な、歴史的仮名遣いや動詞の文法について理解している。 適切な場面・心情理解のために必要な単語の意味を理解している。	歴史的仮名遣いの読みや文法、単語の意味を理解し覚えている。	歴史的仮名遣いの読みや文法、単語の意味を理解している。	歴史的仮名遣いの読みや文法、単語の意味を確かめられる。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
思考・判断・表現	文章内容や構成、展開や心情などを的確に捉え、自分のものの見方や感じ方を深めている。 思考に必要な語彙を豊かにし、その語彙を用いて適切で効果的な表現方法を身につける。	文章に書き表されていることの意味を踏まえて、そこにつながるまで思考していくことができる。	文章にどういったことが書き表されているのかを正しく理解している。	文章に書かれていることに関心を持って、その内容を考えようとする。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
主体的に学習に取り組む態度	古典作品や文学作品を通して、我が国の文化や外国の文化を理解し、その特質や関係性などを進んで思考し、深めることができる。	文章についての課題を自ら見つけ、その意味合いを主体的に考え、自らの問題につなげられる。	文章に主体的に向き合い、その内容を意欲的に理解している。	文章に対して真摯に向き合うことができない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物

令和7年度 年間授業計画				科目の 目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	教科書	歴史総合（実教出版）
教科	地理歴史	科目名	歴史総合			副教材	
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	2年次	形態	クラス単位				
担当者名		1組：高島 2組：村山 3組：高島 4組：村山 5組：高島					

授業 内容	1 学期	2 学期	3 学期
	第1編 近代化と私たち 第1章-1 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動 第1章-2 江戸時代の生産・流通と諸改革 第1章-3 幕政の改革と東アジア世界 第2章-1 イギリス産業革命とアメリカ独立戦争 第2章-2 フランス革命とウィーン体制 第2章-3 アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立	第2章-5 アヘン戦争の衝撃と日本の開国 第2章-6 江戸幕府の滅亡 <small>第3章-1 イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツの統一</small> 第3章-2 明治政府の諸改革 第3章-3 日本のアジア外交と国境問題 第3章-4 自由民権運動と大日本帝国憲法 第4章-1 帝国主義の時代へ 第4章-2 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争 第4章-3 日清戦争後の東アジア	第4章-4 日露戦争と東アジアの変動 第4章-5 日本の産業革命 第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章-1 第一次世界大戦 第5章-2 ロシア革命とソ連の成立 第5章-3 米騒動とデモクラシー 第5章-4 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 第5章-5 アジアの民族運小津 第5章-6 ひろがる社会運動と普通選挙の実現 第6章-1 第二次世界大戦
授業時数	25	35	15

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	世界の歴史における諸事象について十分に理解するとともに、諸資料から適切かつ効果的に情報を読み取る技能が十分に身についている。	世界の歴史における諸事象について理解するとともに、諸資料から適切かつ効果的に情報を読み取る技能が身についている。	世界の歴史における諸事象についての理解が不十分で、諸資料から適切かつ効果的に情報を読み取る技能が身につけていない。	定期考査 年3回（各学期1回） 単元テスト 年5回
思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し構想したりする力や、考察、構想したことを説明したり、議論したりする力を養う。	世界の歴史における諸事象について、学んだ内容から自身の考えを構築するとともに、それを適切に表現することが十分にできる。	世界の歴史における諸事象について、学んだ内容から自身の考えを構築するとともに、それを適切に表現することができる。	世界の歴史における諸事象について、学んだ内容から自身の考えを構築し表現することができない。	定期考査 年3回（各学期1回） 単元テスト 年5回
主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象についてよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解により日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚が十分に深まった。	世界の歴史における諸事象を学んだうえで、日本国民としての自覚と、我が国の歴史に対する愛情、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚が十分に深まった。	世界の歴史における諸事象を学んだうえで、日本国民としての自覚と、我が国の歴史に対する愛情、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚が深まった。	世界の歴史における諸事象を学んだうえで、日本国民としての自覚と、我が国の歴史に対する愛情、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚が深まっていない。	提出物 ・授業プリントの取組状況 ・振り返りシート（学習ログ、自己分析シート）の取組状況

令和7年度 年間授業計画				科目の 目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。	教科書	高等学校 数学Ⅰ(数研出版)
教科	数学	科目名	数学Ⅰ			副教材	Study-UPノート数学Ⅰ(数研出版)
単位数	3単位	区分	必履修				
学年	1学年	形態	少人数				
担当者名		1組：浅川 稲田 2組：黒木 浅川 稲田 3組：黒木 浅川 稲田 4組：黒木 浅川 稲田 5組：黒木 浅川 稲田					

授業 内容	1 学期	2 学期	3 学期		
	第1章 数と式 第1節 式の計算 1. 多項式の加法と減法 2. 多項式の乗法 3. 因数分解 第2節 実数 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む方程式・不等式 第2章 集合と命題 1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題と証明	35	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定 第3節 2次方程式と2次不等式 5. 2次方程式 6. 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7. 2次不等式 第4章 図形と計量 第1節 三角比 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張	45	第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用 第5章 データの分析 1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位数 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間の関係 6. 仮説検定の考え方
授業時数	35	45	25		

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	授業で得た知識を十分理解しており、数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識をほぼ理解しており、数学的に表現・処理したりする技能をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で、数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けられていない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
思考・判断・表現	問題の条件や知識に着目し、数や式を多面的に考たり目切り、応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会的事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物

令和7年度 年間授業計画				科目の 目標	目標 図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。	教科書	高等学校 数学A(数研出版)
教科	数学	科目名	数学A			副教材	Study-UPノート 数学A (数研出版)
単位数	2単位	区分	必履修				
学年	1学年	形態	クラス単位				
担当者名		1組：浅川 大成 2組：稲田 光彦 3組：浅川 大成 4組：稲田 光彦 5組：浅川 大成					

授業内容	1 学期		2 学期		3 学期	
	準備 集合 第1章 場合の数 第1節 場合の数 1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 組み合わせ 第2節 確率 5. 事象と確率 6. 確率の基本性質 7. 独立な試行と確率 8. 条件付き確率 9. 期待値		第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心・内心・重心 3. チェバの定理・メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線 6. 2つの円 7. 作図 第2節 空間図形 8. 直線と平面 9. 空間図形と多面体		第3章 約数と倍数 1. 約数と倍数 2. 素数と素因数分解 3. 最大公約数・最小公倍数 4. 整数の割り算 5. ユークリッドの互除法 6. 1次不定方程式 7. 記数法 8. 座標の考え方	
授業時数	25		30		15	

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識・技能	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	授業で得た知識を十分理解しており、数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識をほぼ理解しており、数学的に表現・処理したりする技能をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で、数学的に表現・処理したりする技能を十分に身に付けていない。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
思考・判断・表現	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。	授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。	主体的・意欲的に数学的を活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物

令和6年度 年間授業計画				科目の 目標	学習の目標 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。	教科書	第一学習社 高等学校 新化学基礎
教科	理科	科目名	化学基礎			副教材	新課程版 ネオパルノート化学基礎
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	1年次	形態	クラス単位				
担当者名		1組： 2組： 3組： 4組： 5組：					

授業 内容	1 学期		2 学期		3 学期	
	第1章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素 ①物質の分離（1） ②物質の分離（2） ③物質を構成する元素 ④元素の確認 ⑤物質の三態 ⑥原子の成り立ち ⑦同位体とその利用 ⑧原子の電子配置 ⑨元素の周期律と周期表	第2節 化学結合 ①イオン（1） ②イオン（2） ③イオン結合 ④イオンからなる物質 ⑤共有結合（1） ⑥共有結合（2） ⑦分子の極性 ⑧分子間に働く力 ⑨分子からなる物質 ⑩共有結合の結晶 ⑪金属結合と金属結晶	⑨分子からなる物質 ⑩共有結合の結晶 ⑪金属結合と金属結晶 第2章 物質の変化 第1節 物質量と化学反応式 ①原子量 ②分子量・式量	③物質量と粒子の数 ④物質量と質量 ⑤物質量と気体の体積 ⑥溶解と濃度 ⑦化学反応式（1） ⑧化学反応式（2） ⑨化学反応の量的関係	第2節 酸・塩基とその反応 ①酸と塩基 ②酸・塩基の強弱 ③水素イオン濃度とpH ④pHの測定 ⑤中和と塩 ⑥中和の量的関係 ⑦中和滴定 ⑧中和滴定曲線	
授業時数	25		25		20	

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質量と化学反応式、化学反応（酸・塩基）について、観察、実験などを通して探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質量と化学反応式、化学反応（酸・塩基）について、理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質量と化学反応式、化学反応（酸・塩基）について、理解が不十分であるとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能の習得が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物 など
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見直しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質量と化学反応式、化学反応（酸・塩基）について、観察、実験などを通して探究し、物質と化学結合における規則性や関係性を見いだして表現している。	化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質量と化学反応式、化学反応（酸・塩基）について、観察、実験などを通して探究し、物質と化学結合における規則性や関係性が習得できている。	化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質量と化学反応式、化学反応（酸・塩基）について、観察、実験などを通して探究し、物質と化学結合における規則性や関係性が習得が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物 など
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質量と化学反応式、化学反応（酸・塩基）に主体的に関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質量と化学反応式、化学反応（酸・塩基）に関わり、科学的に探究しようとしている。	化学と物質、物質の構成粒子、物質と化学結合、物質量と化学反応式、化学反応（酸・塩基）に関わり、科学的に探究しようとする態度が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物 など

令和7年度 年間授業計画				科目の 目標	学習の目標 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。	教科書	i版生物基礎
教科	理科	科目名	生物基礎			副教材	サンダイヤル生物基礎の基本マスター
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	1年次	形態	クラス単位				
担当者名		1組：石原 2組：石原 3組：石原 4組：石原 5組：石原					

授業 内容	1 学期		2 学期		3 学期	
		1章 生物の特徴 1 生物の多様性 2 生物の共通性 3 生物の進化と系統 4 細胞と個体の成り立ち 5 真核細胞の構造 6 原核細胞の構造 7 生命活動とエネルギー 8 ATPの構造 9 生体内の化学反応と酵素 10 光合成と呼吸	2章 遺伝子とその働き 1 生物と遺伝情報 2 DNAの構造と遺伝情報 3 DNA複製 4 DNAと染色体 5 細胞周期とDNAの分配 6 細胞周期とDNA量の変化	2章 遺伝子とその働き 7 遺伝子発現とタンパク質 8 転写と翻訳 9 遺伝暗号表 10 遺伝子発現と維持 3章 神経系と内分泌系 1 恒常性と体液 2 血液凝固と線溶 3 恒常性に関わる神経系 4 自律神経系と脳死 5 ホルモンによる調節 6 ホルモン分泌の調節 7 血糖濃度の変化と糖尿病 8 血糖濃度の調節の仕組み 9 体温と水分量の調整	4章 免疫 1 生体防御の概要 2 異物の侵入を阻止する仕組み 3 自然免疫の仕組み 4 獲得免疫の概要 5 細胞性免疫と体液性免疫	4章 免疫 6 抗体とその利用 7 免疫記憶とその利用 8 免疫と病気 5章 植生と遷移 1 環境と生物 2 光の強さと植物 3 森林の階層構造と土壌 4 遷移の過程 5 遷移に伴う環境の変化 6 遷移と世界のバイオーム 7 日本のバイオーム
授業時数	25		25		20	

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識・技能	生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を十分に理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が十分に身に付いている。	生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解が不十分であり、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能の習得が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見直しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が十分に習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が十分に育まれている。	探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。	探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法の習得が不十分である。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力の育成が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が十分に養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が十分に養われている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が不十分である。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が不十分である。	定期考査 授業中の小テスト 提出物

令和7年度 年間授業計画				科目の 目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを旨とする。	教科書	現代高等保健体育
教科	保健体育	科目名	体育1			副教材	なし
単位数	3単位	区分	必履修				
年次	1年次	形態	クラス単位				
担当者名		1組：原木、谷口、大森 2組：原木、谷口、大森 3組：原木、谷口、大森 4組：原木、谷口、大森 5組：原木、谷口、大森					

授業 内容	1 学期		2 学期		3 学期	
		A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に生かす運動の計画 C 陸上競技 ア 短距離走、長距離走 E 球技 ア ゴール型 イ ネット型 G ダンス ウ 現代的なリズムのダンス H 体育理論 (1) スポーツの文化的特徴や現代のスポーツの発展		A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に生かす運動の計画 E 球技 ア ゴール型 イ ネット型 G ダンス ウ 現代的なリズムのダンス H 体育理論 (2) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方		A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動 イ 実生活に生かす運動の計画 C 陸上競技 ア 長距離走 E 球技 ア ゴール型 イ ネット型 H 体育理論 (1) 豊かなスポーツライフの設計の仕方
授業時数	35		45		25	

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	運動の多様性や体力の必要性について理解しており、それらの技能を十分に身に付けている。	運動の多様性や体力の必要性についてほぼ理解しており、それらの技能をほぼ身に付けている。	運動の多様性や体力の必要性について理解が不十分で、それらの技能の習得が不十分である。	実技テスト 授業への取り組み 学習カード
思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断をする力が不十分で、表現することに努力を要する。	実技テスト 授業への取り組み 学習カード
主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。	主体的・意欲的に体育に取り組む態度と生涯にわたって継続して運動に親しむ態度が十分にある。	主体的・意欲的に体育に取り組む態度と生涯にわたって継続して運動に親しむ態度がある。	主体的・意欲的に体育に取り組む態度と生涯にわたって継続して運動に親しむ態度が不十分である。	授業への取り組み 学習カード 出席状況

令和7年度 年間授業計画				科目の 目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。	教科書	現代高等保健体育（大修館書店）
教科	保健体育	科目名	保健1			副教材	なし
単位数	1単位	区分	必履修				
年次	1年次	形態	クラス単位				
担当者名		1組：大森 2組：大森 3組：原木 4組：原木 5組：原木					

授業 内容	1 学期	2 学期	3 学期		
	1 単元 現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康	1 単元 現代社会と健康 9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	2 単元 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法	授業時数 12	14

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	授業で得た知識を十分理解しており技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識をほぼ理解しており、技能をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で、技能を十分に身に付けていない。	定期考査 提出物
思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断をする力が不十分で、表現することに努力を要する。	定期考査 提出物 授業に取り組む姿勢
主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	主体的・意欲的な態度が十分にあり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。	主体的・意欲的な態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。	主体的・意欲的な態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。	定期考査 提出物 授業に取り組む姿勢

令和7年度 年間授業計画				科目の 目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。	教科書	MOUSA1
教科	音楽	科目名	音楽Ⅰ			副教材	ジュニアクラスの楽典問題集
単位数	2単位	区分	必修修				
年次	1年次	形態	必修選択				
担当者名		今村					

授業 内容	1 学期		2 学期		3 学期	
	<p>○歌唱</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な歌唱の姿勢、呼吸、発声法 校歌 イタリア歌曲 <p>○ボディーパーカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ボディーパーカッションによる表現効果 楽曲の共通イメージをもち、表現を創意工夫してリズムアンサンブルする <p>○楽典・ソルフェージュ</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽譜の構造 音名、音部記号 音価 リズム・聴音 	<p>○鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> 声や様々な楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわり 音楽を形づくっている要素の知覚と、それらの働きの感受 楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の効果 	<p>○歌唱</p> <ul style="list-style-type: none"> フランスオペラアリア 合唱曲 各パートの音の重なり方や全体の調和 曲想と歌詞の内容との関わり <p>○楽典・ソルフェージュ</p> <ul style="list-style-type: none"> 変化記号、調号や臨時記号 反復記号 楽譜の書き方 リズム・聴音 	<p>○鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> 声や様々な楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわり 音楽を形づくっている要素の知覚と、それらの働きの感受 楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の効果 <p>○ギター</p> <ul style="list-style-type: none"> ギターの基本的な奏法 ギターの音色や奏法の特徴 	<p>○歌唱</p> <ul style="list-style-type: none"> 合唱曲 各パートの音の重なり方や全体の調和 曲想と歌詞の内容との関わり 指揮法 <p>○創作</p> <ul style="list-style-type: none"> コード進行に合わせた旋律づくり イメージを音で表現する 順次進行・跳躍進行 	<p>○楽典・ソルフェージュ</p> <ul style="list-style-type: none"> 変化記号、調号や臨時記号 反復記号 楽譜の書き方 リズム・聴音
授業時数	24		28		18	

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	授業で得た知識や技術について十分理解を深めており、適切に表現するために必要な技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識や技術について理解しており、適切に表現するために必要な技能を概ね身に付けている。	授業で得た知識や技術の理解が不十分で、適切に表現したするために必要な技能を十分に身に付けられていない。	授業の様子・取り組み 授業内小テスト 実技テスト ワークシート等の提出物
思考・判断・表現	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	授業や課題を通して知覚・感受したことを思考し、正しく判断し、自分の思いや意図をもって創意工夫して表現することができる。	授業や課題を通して知覚・感受したことを思考し、判断し、自分の思いや意図をもって表現することができる。	授業や課題を通して知覚・感受したことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。	授業の様子・取り組み 授業内小テスト 実技テスト ワークシート等の提出物
主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。	授業の様子・取り組み 授業内小テスト 実技テスト ワークシート等の提出物

令和7年度 年間授業計画				科目の 目標	「美術とは何か」小・中学校での図画工作・美術の学習を振り返り、自分の美術に対する見方や考え方を認識して「高校生の美術Ⅰ」の学習イメージを持ち、美術の学びの意味や広がりについて考える。	教科書	高校生の美術1 日本文教出版
教科	芸術	科目名	美術Ⅰ			副教材	なし
単位数	2単位	区分	必修修				
年次	1年次	形態	必修選択				
担当者名		松木、下島					

授業内容	1学期		2学期		3学期	
	1. デザイン 紙パック飲料のデザイン 身の回りにある商品 そのデザインや効果を考える 自分で飲料を考え、中身や商品のアピール方法、陳列等を考えてデザインする 彩色 仕上げ 組み立て 評価鑑賞	2. デザイン アンビグラム アンビグラムの理解 制作方法の理解 自分の名前をひらがなに直しアンビグラムを制作 彩色 仕上げ 評価鑑賞	3. 工芸 彫刻 手鏡の制作 用途、使いやすさ、道具としての機能を理解するとともに木工の技術彫刻の技法を学ぶ デザイン 制作 仕上げ 評価鑑賞	4. 絵画 自画像 ・人物の顔の骨格について学びそれに基づいた筋肉や皮膚のつき方を理解させる。 ・色々な作品を鑑賞し人物画の魅力学ぶ。 ・自己の内面を探り、心の内の思いや感情を表現する。 ・評価、鑑賞	5. デザイン プッシュステンド ステンドガラスの歴史や技法を学ぶ オリジナルのステンドガラスのデザインを考える プッシュステンドにて制作 評価講評	6. ペーパークラフト 住居の設計 人の暮らす住居について居住性、動線、設備等について考える 自分の住む住居を考え設計 設計図を基に模型を作る 制作仕上げ 評価講評
授業時数	22h		28h		20h	

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識・技能	対象や事象を捉え、造形的な視点について理解しているか、創造的な表現をするための技能を身に付け、工夫して表現している。	授業で得た知識を十分理解しており、表現したり、構想を展開させる技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識をほぼ理解しており、表現したり、構想を展開させる技能をほぼ身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分で、表現したり、構想を展開させる技能を十分に身に付けられていない。	課題提出 ワークシート プリント プ
思考・判断・表現	造形的な良さや美しさ、表現の意図と工夫、美術の動きについて考えるとともに、主題を生成し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	授業や課題を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題を通して学んだことを思考判断し、表現することがほぼ出来ている。	授業や課題を通して学んだことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。	課題提出 ワークシート プリント
主体的に学習に取り組む態度	美術やし美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	主体的・意欲的に課題に取り組む態度があり、問題解決の過程を振り返り考察を深めようとする態度が十分にある。また、画材や道具も大事に扱い、後片付けもしっかり出来ている。	主体的・意欲的に課題に取り組む態度があり、問題解決の過程を振り返り、考察を深めようとする態度がある。画材や道具の扱い、後片付けも、ほぼ出来ている。	主体的・意欲的に課題に取り組む態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察を深めようとする態度が不十分である。道具や画材などの後片付けが出来ない。	課題提出 ワークシート プリント

令和7年度 年間授業計画				科目の 目標	書の表現について幅広く理解するとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫することができるようにする。主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育む。	教科書	書道Ⅰ
教科	書道	科目名	書道Ⅰ			副教材	
単位数	2単位	区分	必修修				
年次	1年次	形態	必修選択				
担当者名		柳澤					

授業 内容	1 学期		2 学期		3 学期				
	○書の用具・用材 ・筆・硯・墨・紙について ・用具による表現効果の違い ・墨色による表現効果の違い ○書写と書道 ・様々な表現 ・国語科書写について ・高等学校芸術科書道について ・古典の学習の意義	○古典の鑑賞と臨書（楷書） ・書体の変遷と楷書の成立 ・基本点画の筆使い ・九成宮醜泉銘 ・孔子廟堂碑 ・雁塔聖教序 ・自書告身 ・牛欄造像記 ○作品制作 ・臨書する古典/書きたい言葉を考える ・創作の場合は、書体・書風を考える ・草稿の作成 ・練習	○作品制作（続き） ・作品を完成させる ・展示 ○古典の鑑賞と臨書（行書） ・行書の特徴 ・蘭亭序 ・争坐位文稿 ・風信帖 ・三筆・三蹟の書	○古典の鑑賞と臨書（隷書） ・曹全碑	○古典の鑑賞と臨書（仮名） ・仮名の成立と仮名の種類 ・平仮名の単体 ・変体仮名と連綿 ・蓬萊切の鑑賞と臨書 ・高野切第三種の鑑賞と臨書	○創作（漢字かな交じりの書） ・漢字かな交じりの書の鑑賞 ・撰文 ・書体・書風の工夫 ・紙面構成の工夫 ・作品を完成させる	授業時数	24	28

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識・技能	① 器具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ② 書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ③ 鑑賞に基づく基本的な用筆・運筆ができています。 ④ 鑑賞の線質、字形や構成を生かした表現ができています。	授業で得た知識や技術について十分理解を深めており、適切に表現するために必要な技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識や技術について理解しており、適切に表現するために必要な技能を概ね身に付けている。	授業で得た知識や技術の理解が不十分で、適切に表現したするために必要な技能を十分に身に付けられていない。	・基本的な臨書課題 (提出作品と取り組みの過程) (・ワークシート・プリント)
思考・判断・表現	① 鑑賞の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成を工夫している。 ② 作品制作においては、意図に基づいた表現を工夫している。 ③ 書のよさや美しさを感じて捉えることができている。	授業や課題を通して知覚・感受したことを思考し、正しく判断し、自分の思いや意図をもって創意工夫して表現することができる。	授業や課題を通して知覚・感受したことを思考し、判断し、自分の思いや意図をもって表現することができる。	授業や課題を通して知覚・感受したことを思考判断する力が不十分で、表現することに努力を要する。	・創作作品・臨書作品の制作 (提出作品と取り組みの過程) (・ワークシート・プリント)
主体的に学習に取り組む態度	① 漢字・仮名の書に関心を持ち、主体的に漢字・仮名の書の用筆・運筆を身につけ、学習で得た知識・技能を積極的に臨書や創作活動に生かそうとしている。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が十分にある。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度があり、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度がある。	主体的・意欲的に学んだことを活用しようとする態度が弱く、問題解決の過程を振り返り考察深めようとする態度が不十分である。	・ワークシート・プリント

令和7年度 年間授業計画				科目の 目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションに応じて活用できる技能を身に付けるようにする。コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて的確に理解し適切に表現できる力を養う。主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	教科書	Power On English Communication I
教科	英語科	科目名	英語コミュニケーションI			副教材	Power On WORKBOOK I
単位数	3単位	区分	必修				Power On スタディノート I
年次	1年次	形態	習熟度別				
担当者名		1組： 2組： 3組： 4組： 5組：					

授業 内容	1 学期		2 学期		3 学期	
	Lesson1 Japan's New Tourism Lesson2 Light from Creatures Lesson3 Routes to the Top Lesson4 Left to Right, Right?		Lesson5 Banana Paper Lesson6 Patterns in Human Behavior Lesson7 No Plastic or No Future Lesson8 oh My Cod!		Lesson9 Is E-sports a Real Sport? Lesson10 Being Different Is Beautiful	
授業時数	35		45		25	

観点別評価	観点	A (満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)	評価方法
知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身につけている。	[知識]外国語の文法の形・意味・用法を理解している。 [技能]文法の理解をもとに、日常的な話題や社会的な話題について、詳細に聞き取ったり、読みとる技能を身につけている。また自分の考えを理由や根拠とともに、詳しく話したり書いたりする技能を身につけている。	[知識]外国語の文法の形・意味・用法をおおむね理解している。 [技能]文法の理解をもとに、日常的な話題や社会的な話題について、おおむね聞き取ったり、読みとる技能を身につけている。また自分の考えを理由や根拠とともに、おおむね話したり書いたりする技能を身につけている。	[知識]外国語の文法の形・意味・用法の理解が不足している。 [技能]文法の理解をもとに、日常的な話題や社会的な話題について、聞き取ったり、読みとる技能が欠けている。また自分の考えを理由や根拠とともに、話したり書いたりする技能が不十分である。	定期考査 英作文 ワーク、提出物
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝えたりしている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点、詳細を整理して把握している。また自分の考えを理由や根拠とともに論理性に注意して詳しく書いて伝えている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点、詳細をおおむね整理して把握している。また自分の考えを理由や根拠とともに書いて伝えている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を読み取り、書き手の意図、概要や要点、詳細を整理して把握することに欠けている。また自分の考えを理由や根拠とともに書くことが不十分で、論理性に欠けている。	定期考査 英作文 ワーク、提出物
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を聞いたり、読んだりして、書き手の意図、概要や要点、詳細を整理して把握しようとしている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を聞いたり、読んだりして、書き手の意図、概要や要点、詳細をおおむね整理して把握しようとしている。	情報や自分の考えをまとめるために、日常生活や社会的な話題について、必要な情報を聞いたり、読んだりして、書き手の意図、概要や要点、詳細を何とか整理して把握しようとしている。	定期考査 授業の取り組み ワーク、提出物

令和7年度 年間授業計画				科目の 目標	英語で論理的に正しく表現するための基礎を学習する。各レッスンを通じてコミュニケーションを行う場面・状況に応じて、情報や自分自身の考えを適切に表現するための基礎を身に付ける。	教科書	MY WAY Logic and Expression I
教科	英語科	科目名	論理表現I			副教材	MY WAY Logic and Expression Iワークブック
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	1年次	形態	クラス単位				
担当者名		1組： 2組： 3組： 4組： 5組：					

授業 内容	1学期		2学期		3学期	
	Lesson 1 Let's Talk about Ourseives Lesson 2 School Life Lesson 3 The Arts Lesson 4 Food and Culture		Lesson 5 Welcome to Our Town Lesson 6 Traveling Abroad Lesson 7 Sports Lesson 8 Everyday Technology		Lesson 9 Take Care Lesson 10 SDGs Take Action!	
授業時数	25		30		15	

観点別評価	観点	A (満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)	評価方法
知識・技能	論理表現の学習活動において、英語の文法を正しく使用し、なるべくたくさんの語句を用いて話を続けたり会話を続けようとしているか。	話の流れがよく、興味深い内容をしている。理由や例示などの情報が、適切に述べられている。文法の使い方が適切である。	話の流れが悪くなく、おおむね適切な内容を話している。理由や例示などの情報が、おおむね適切に述べられている。文法の使い方がおおむね適切であるが、少し誤りがある。	表現の使い方が不適切である。理由や例示などの情報が、適切に述べられていない。文法の使い方が不適切である。	定期考査 提出物
思考・判断・表現	論理表現の学習活動において、英語の表現を考え、適切な英語を選び、英文を作成し、話したり書いたり読んだりしているか。	誤りのない適切な表現が使われている。聞き取りやすく正しい発音で読んでいる。滑らかで、理解しやすい読み方である。	おおむね誤りのない適切な表現が使われている。おおむね聞き取りやすく正しい発音で読んでいる。(誤りなどが少しある) おおむね滞ることなく、理解可能な読み方である。	表現の使い方が不適切である。発音の誤りなどが多く聞き取りにくい。滞ることが多く、理解するのが困難な読み方である。	定期考査 提出物
主体的に学習に取り組む態度	論理表現の授業活動における活動において、相手に自分の事を伝えようとしている。また、学習活動に取り組んでいるかを判断する提出物を提出できるか。	レッスン毎の自由英作文に、相手を意識して、内容を明確に伝えようとしている。 授業の内容をワークを利用して学習している。	レッスン毎の自由英作文に、相手を意識して、内容を概ね明確に伝えようとしている。 授業の内容をワークを利用しておおむね学習している。	レッスン毎の自由英作文に、相手を意識して、内容を明確に伝えようとしていない。 授業の内容をワークを利用して学習しているが抜けている箇所がある。	定期考査 自由英作文 ワーク

令和7年度 年間授業計画				科目の 目標	情報に関する科学的な見方・考え方、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための能力を培う。	教科書	情報Ⅰ Next (数研出版)
教科	情報	科目名	情報Ⅰ				
単位数	2単位	区分	必履修				
年次	1年次	形態	クラス単位				
担当者名		新妻 聡					

授業 内容	1 学期		2 学期		3 学期	
	<p>1 情報社会の問題解決</p> <p>(1) 情報とメディア</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報の特徴 情報の表現形式 問題解決 <p>(2) 情報技術と問題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> スライドの作成練習 アルゴリズムの基本動作 ユーザビリティ アクセシビリティ <p><探究1> 「身の周りにあると役に立つアプリケーションをデザインしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 生成AIの導入授業 IoT 社会の変化 	<p>(3) 情報セキュリティと法</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人情報 知的財産権 著作権 情報セキュリティ 情報セキュリティ対策 SNS上のトラブル <p>* 1学期期末考査</p>	<p>2 コミュニケーションと情報デザイン</p> <p>(1) 情報のデジタル表現</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル情報とは デジタル表現 デジタル圧縮 <p>(2) コミュニケーションの特性</p> <ul style="list-style-type: none"> メディアと情報の特性 情報技術の発達 <p>(3) 情報デザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> 抽象化・構造化・可視化 効果的な情報デザイン ユニバーサルデザイン 	<p>3 コンピュータとプログラミング</p> <p>(1) ハードウェア</p> <p>(2) ソフトウェア</p> <p>(3) アルゴリズムの表現</p> <p>(4) Pythonプログラミング (計算、反復、条件、引数)</p> <p><探究2> 「身の周りにあると役に立つプログラムを作成し、実装しよう」</p> <p>* 2学期期末考査</p>	<p>3 コンピュータとプログラミング</p> <p>(5) 表計算ソフトの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 表の作成 基本的な集計 グラフの作成 <p>(6) モデル化とシミュレーション</p> <ul style="list-style-type: none"> モデル化 (形式化) シミュレーションの実施 	<p>4 情報通信ネットワークとデータの活用</p> <p>(1) ネットワークの仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> コンピュータによる通信 通信プロトコル IPアドレスとドメイン名 <p>(2) データベースの管理</p> <ul style="list-style-type: none"> データベースの仕組み 関係データベースの理解 <p>(3) データの分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 1変数分析 2変数分析 テキストマイニング <p><探究2> 「ビッグデータを解析し、地域の問題点を考察してみよう」</p> <p>* 3学期期末考査</p>
授業時数	24		29		17	

観点別評価	観点	A	B	C	評価方法
知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	授業で得た知識を十分理解しており、コンピュータやデータを活用し、表現・処理したりする技能を十分に身に付けている。	授業で得た知識を理解しており、コンピュータやデータを活用し、表現・処理したりする技能を身に付けている。	授業で得た知識の理解が不十分であり、コンピュータやデータを活用し、表現・処理したりする技能が不十分である。	定期考査 Webレポート・テスト等 実習取り組み状況・成果物 提出物等
思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	授業や課題(実習)を通して学んだことを思考し、正しく判断し、適切に表現することができる。	授業や課題(実習)を通して学んだことを思考判断し、表現することができる。	授業や課題(実習)を通して学んだことを思考判断し、表現することが不十分である。	定期考査 Webレポート・テスト等 実習取り組み状況・成果物 提出物等
主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善に取り組み、考察を深めようとする態度が十分にある。	主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善に取り組み、考察を深めようとする態度がある。	主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善に取り組み、考察を深めようとする態度が不十分である。	定期考査 Webレポート・テスト等 実習取り組み状況・成果物 提出物等

東京都立高等学校 令和7年度（1学年用）教科 総合的な探究の時間 科目 人間と社会

教科 科：総合的な探究の時間 科目：人間と社会 単位数：1 単位

対象学年組：第1学年 1組～ 5組

教科担当者：（1組：黒羽）（2組：大森）（3組：内田）（4組：原木）（5組：石原）

使用教科書：（人間と社会 東京都教育委員会）

教科 総合的な探究の時間 の目標： 選択・行動に関する資質・能力を育成する学習、体験活動による学習を通してよりよい生き方の主体的な選択を育成することを目指す。

- 【知識及び技能】 価値の理解を深める学習、選択・行動に関する能力を育成する。
 【思考力、判断力、表現力等】学習、体験活動などを通して、道徳を養い、形成した判断基準（価値観）を高める。
 【学びに向かう力、人間性等】社会的現実と照らし、よりよい生き方を主体的に選択し、行動する能力を育成する。

科目 人間と社会 の目標： 選択・行動に関する資質・能力を育成する学習、体験活動による学習を通してよりよい生き方の主体的な選択を育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・様々な価値や考え方がありという多様性の理解や他者と協働することの意義の理解等。 ・他者と協働する技能等。 ・必要な情報の収集・整理・分析等。 ・一面的な考察から多面的・多角的考察への変化や自己の内面的変化から自己の行動の変化等。 ・自他の考え方や調べた知識等を他者に伝える力等。 ・社会の一員として主体的に関わりようとする姿勢等。 ・問いや課題を見つけ、学習に主体的に取り組むとする姿勢等。		

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
単元 序章と第1章人間関係を築く	<ul style="list-style-type: none"> 単元の基本的な内容に関して学ぶ あなたならどうする？ワークシートの記入 学習の進め方の説明 	【知識及び技能】自己と実生活や実社会との関わりから、生徒が新しい課題を自ら見出し、考察に必要な知識を身につけたり、情報を整理・分析したりする。 【思考力、判断力、表現力等】「相互理解」「思いやり」について自己の考えを深めさせるとともに、人間関係形成能力・社会形成能力を育成すること。 【学びに向かう力、人間性等】集団活動の中で、人間としての在り方生き方に対する自覚を深めるとともに、社会の中で自己のよさや可能性を生かす力、前向きに自己の将来を設計する態度などを育てていく。		○		2
街を歩き地域とのかかわりを実感する	13章「地域社会を築く」から山崎町のフィールドワーク			○		2
単元 第1章「地域社会を築く」 地域社会はだれが何のために築くのか？	<ul style="list-style-type: none"> 単元の基本的な内容に関して学ぶ あなたならどうする？ワークシートの記入 グループワークにより意見を出し合い、新たな問い・疑問や不思議を言葉による表現 	【知識及び技能】知識を身につけたり、情報を整理・分析したりすることや、解決のための話し合いを進めたり、自分の考えを効果的に説明したりするなどの技能を身につける。 「自然と人間の関わり」について、「私たちの生活と取り巻く自然や環境」等について、情報を整理し、理解する。 【思考力、判断力、表現力等】生徒自らが情報を収集し、整理・分析したものを基に考察した内容を意見として発表したり討論したり、自分の考えを文章にまとめたりするなどの表現する活動の機会を設け、積極的に活用していくことが必要である。 「生命の尊さ」「自然愛護」について自己の考えを深めさせるとともに、課題対応能力を育成する。 【学びに向かう力、人間性等】課題解決を図って、よりよい社会を表現するためには、社会を構成する当事者として社会の中に存在する様々な課題に向き合い、社会の一員として積極的に課題解決に取り組む。		○		4
国内ユネスコ委員との「私の履歴書ワークショップ」	ワークシートを記入しグループで協議する。			○		1
<ul style="list-style-type: none"> 1学期の探究の振り返り 2学期の探究発表会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の探究活動の振り返りを行い2学期以降の探究活動へ活かしていく。 ユネスコスクールとしての取り組みについて 2学期の探究発表会へ参加し、探究への見通しを立てていく。 	【知識及び技能】予測できない社会の変化や新たな課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】自己と社会との関りから課題を見だし、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力を基に議論したいする表現力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことにより、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。		○		2
国内ユネスコ委員との教育分野の探究活動	<ul style="list-style-type: none"> 1学年によるユネスコスクールとしての取り組みについて 特別活動に向けた準備 	【知識及び技能】予測できない社会の変化や新たな課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】自己と社会との関りから課題を見だし、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力を基に議論したいする表現力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことにより、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。		○		4
国内ユネスコ委員との科学分野の探究活動	<ul style="list-style-type: none"> 1学年によるユネスコスクールとしての取り組みについて 特別活動に向けた準備 町田市役所、東京家政学院大学との協働した体験活動 			○		2
国内ユネスコ委員との文化分野の探究活動				○		2
国内ユネスコ委員との探究活動のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 1学年によるユネスコスクールとしての取り組みについて 特別活動に向けた準備 町田市役所、東京家政学院大学との協働した体験活動 			○		4
探究成果発表会	<ul style="list-style-type: none"> これまで探究してきたテーマについて個人でまとめていく。 パワーポイント等を用いた探究のプロセスから生み出された問いの発表 			○		4

3 学 期	2学年に向けた探究活動へ 幼小中高合同文化祭で得られた課題発見に 対する問いを立てる	・パワーポイント等を用いた探 究のプロセスから生み出された 問いの発表への準備 ・外部機関からの講評を含めた まとめと振り返り	【知識及び技能】予測できない社会の変化や新たな課 題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見 し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 自己と社会との関りから課題を見だし、情報を集 め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力を 基に議論したいする表現力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むこと によって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深 め、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を 実現しようとする態度を養う。	○	4
	合計				
					35